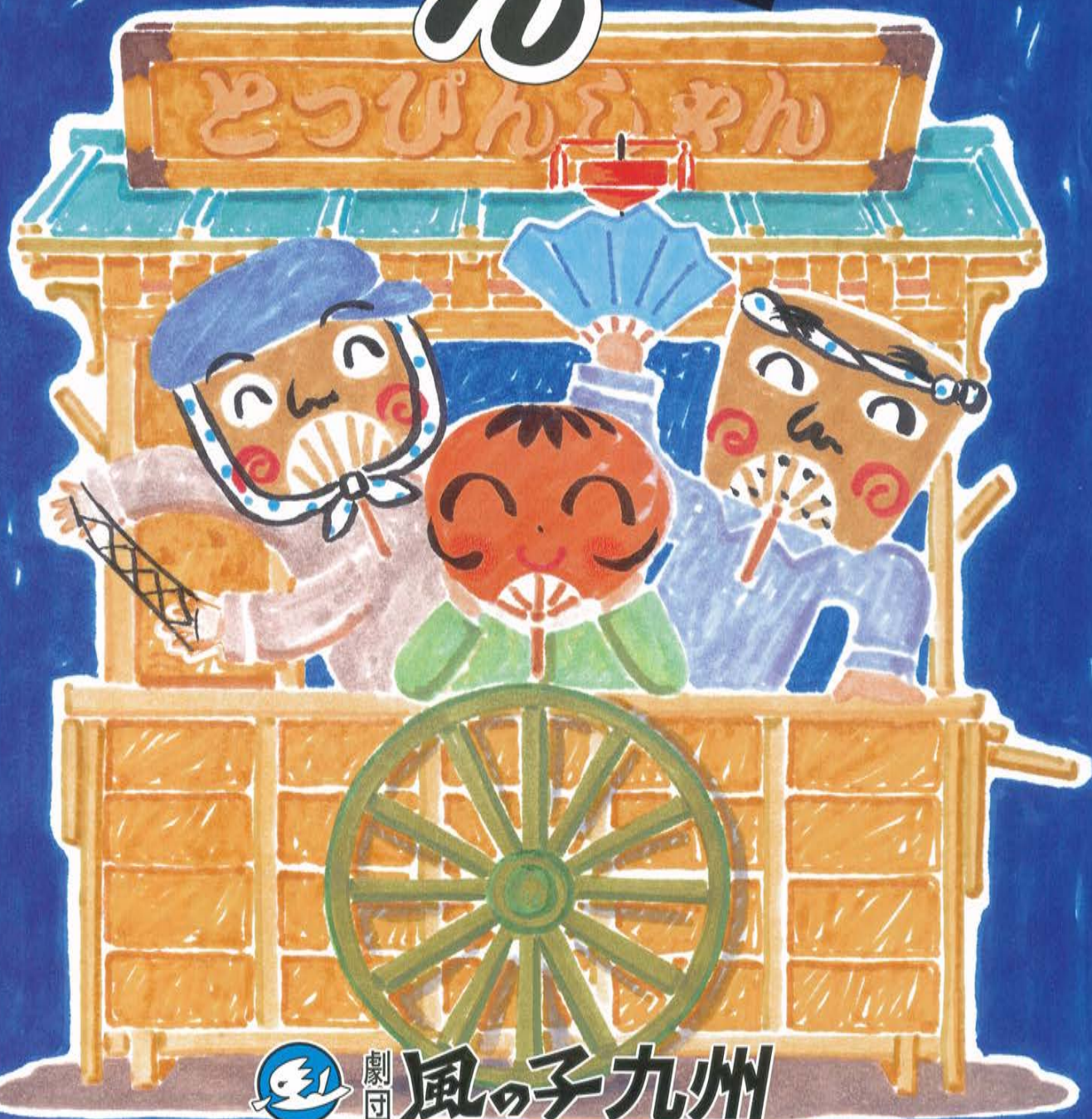


# どっぴんちやん

風のちやんちや

九州各地の伝承あそびや  
わらべ唄を素材に  
現代の子どもたちと  
いっしょに創る舞台



■作・演出／中島研 ■美術／有賀二郎 ■衣裳／小宮真理子 ■わらべ唄遊び指導／古賀由美子 ■博多独楽指導／筑紫珠奈（博多独楽保存会）  
■まりつき指導／三原富子 ■風俗考証／友野晃一郎 ■博多ちゃんぽん製作／小川勝男 ■舞台製作／古賀義己 ■制作／飯屋祐一

劇団 九州の子の風

厚生労働省 社会保障審議会推薦 児童福祉文化財

イラスト／八尋 清美



わらべうたで遊ぶことは、心とからだを自覚めさせ、自然の神秘さ・不思議さに目を見はり、生きている輝きをもち、人間的なふれあいを豊かにしていきます。自然との共生・祈り・願いを口ずさめる感性をいつも新鮮にたもちつけていきたいと思います。

福岡教員養成所教授 古賀由美子



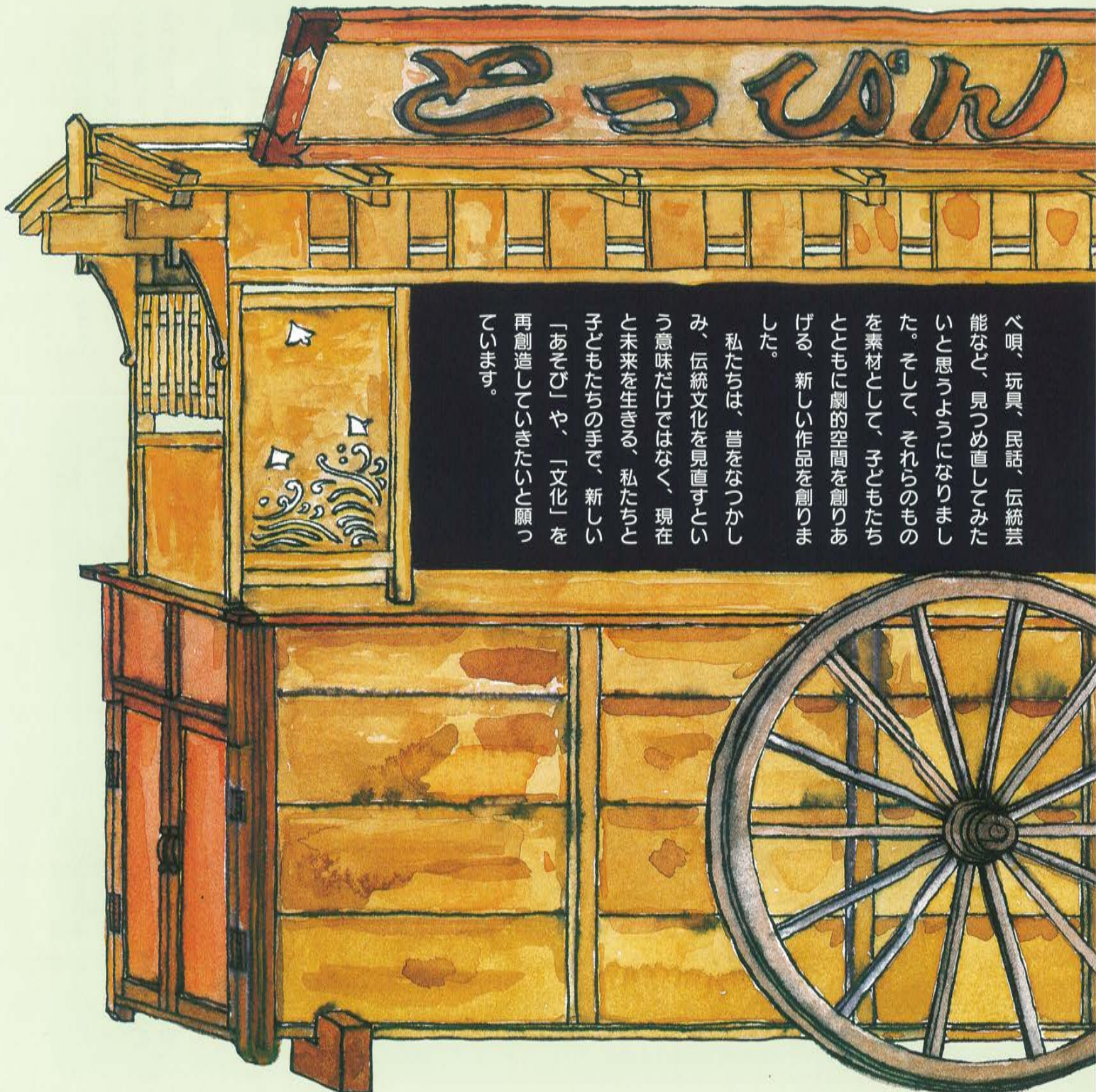
劇団風の子と出会ってもう三十年にもなります。風の子九州の「とっぴんしゃん」ではまりつき遊びや唄などで参加させていただき、今でも地域や海外公演されている報に心熱いものをかんじます。

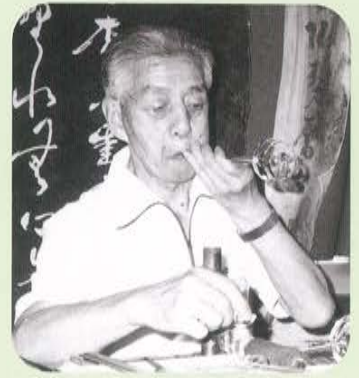
三原富子

# とっぴん

唄、玩具、民話、伝統芸能など、見つめ直してみたいと思うようになりました。そして、それらのものを素材として、子どもたちとともに劇的空間を創りあげる、新しい作品を創りました。

私たちは、昔をなつかしみ、伝統文化を見直すという意味だけではなく、現在と未来を生きる、私たちが子どもたちの手で、新しい「あそび」や、「文化」を再創造していきたいと願っています。





ちゃんぼん製作

江戸時代に中国から入ってきたちゃんぼん。大正末に廃絶しましたが、1971年、小川勝男さんの手により復活・再製されました。

小川勝男

(小川勝男さんは、2001年7月に他界されました)



子ども文化の伝承と創造

劇団「風の子」九州班独立の時に私ほわらべ唄で御縁がありました。爾来、九州班の皆さんの「伝承すべき子ども文化はきっちり伝え、さらに新しい文化を創造する」という情熱と地道な活動に対し、感謝と大きな期待を寄せているところであります。

元小学校校長 友野晃一郎

## 福岡・地元スタッフからのメッセージ



風の子と独楽

「ワーストイ」独楽芸を子どもたちに披露すると、必ず会場から聞こえてくる声、目をまあるくして、シーンとして観てくれる。今、消えつつある大切な日本文化の伝承遊び、その中から生まれた独楽遊びと、芸、独楽芸の厳しい練習を乗り越え頑張ってきた団員の方々と共に、私の丹精こめて創った独楽は、世界中の子どもたちの心につまでも感動として回りつづけていっていると想います。これからも、全国に夢と感動を子どもたちに伝える大使としてのご活躍を期待しております。

福岡県無形文化財指定

博多独楽宗家 二代目 筑紫珠楽

近年、子どもたちが連れだって野外で遊ぶ姿が見られなくなってきました。大人にも、幼い時代、毎日のように遊んだ経験のない人たちがふえています。私たち「風の子九州」は、福岡で生活し、九州各地で公演を続ける中から、九州各地の伝承あそびや、わら

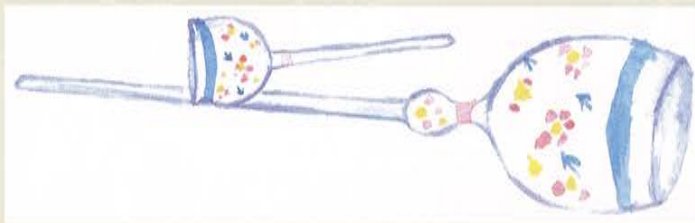




子どもたちの代表的な遊び、こま。博多独楽は、こま芸の起源といわれ、四百年ちかい歴史をもっています。今日は風の子九州のメンバーが、この伝統芸に挑戦します。

## 伝統芸能

はかた 博多独楽



## 郷土玩具を使ったおもちゃごっこ

はかた 博多ちゃんぽん



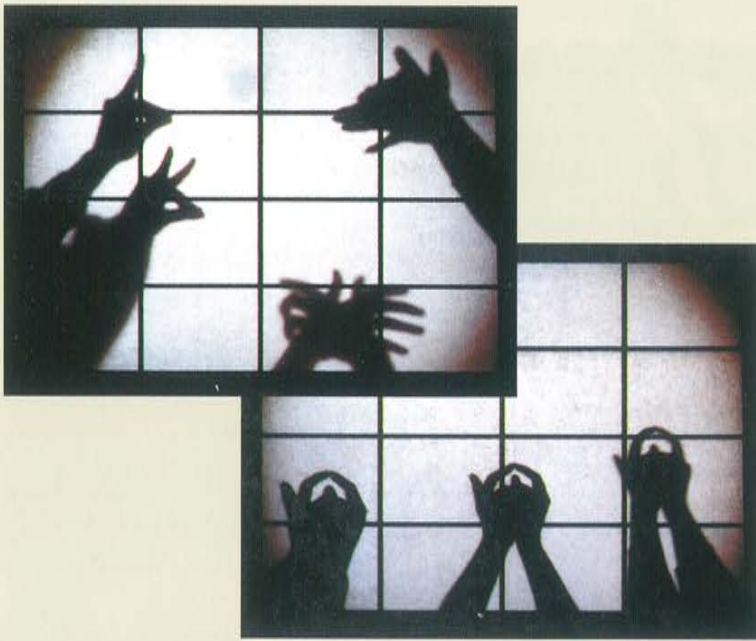
ガラスで作った繊細なおもちゃ「博多ちゃんぽん」。福岡市東区は管崎宮の放生会はなごひぎやで見ることができます。その形と音を楽しんでください。

## 屋台……

芝居の中で、屋台崩しという、ガツチリ舞台に飾りこまれた立派な城や屋敷が、地震や火災で崩れ落ちる派手な仕掛けの見せ場をさす言葉ですが、現実の町の中の屋台は、まことにつましい民衆の移動店舗を意味します。

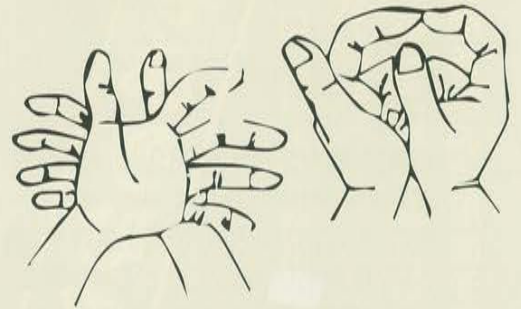
江戸の昔からの夜鳴きそばや、縁日やお祭りでの出店は、アセチレンのにおいとともにおいころからの思い出をかきたてます。お母さん方にとっては、市場の屋台は、毎日の生活に直結しています。そして、お父さんや青年たちにとっては、夜の大通りの一隅に並ぶラーメン、おでん、てんぷら屋の屋台は、一杯のコップ酒とともに、これまた通勤帰りのいいこの場として、なく





障子に手や指を  
うつしてあそぶ

て かけ え  
手影絵あそび



九州各地の民話より

おはなしばやし



日本の祭りにつきもののおはやしにのせて、九州各地に伝わる昔話をお聞かせしましょう。



正に屋台は、庶民の知恵が生み出した簡便にして自由な店舗であり、交際場であり、小空間です。  
わたしたちは、これを大きな屋台崩しとは逆の、庶民的な小さな芝居を提供する屋台として活かしてみたい、そう思っています。

《博多の屋台》

博多を訪れると屋台が目につく。歓楽街だけでなく、街中いたるところにある。正しくは「移動飲食店」といって、福岡市内で、約一六〇台が稼働中。天ぷら、ラーメン、おでん、うどん、ホルモン焼きなど、バラエティーに富み、しかも、うまく遊ぶ。

敗戦後、博多港が引き揚げ港だったことから、外地からの引き揚げ者や、在日外国人たちがはじめたのがきっかけで、風雨や暑さ寒さにもめげず、都心の歩道に堂々と鎮座し、夜明けまでがんばっています。

なかがみまごとし



きょう、みてもあったことは、わらべうたをきいたのがたのしかったです。一つしつているものがありました。それはいちもんめのいすげきです。(1年生)

きょうのげきの3にんのあやとりをみてびっくりしました。また2ねんせいになったらあのをききたいです。(1年生)

はじめタイトルを見てもよくわからなかったが、楽しかった。「寄せ」のようであきなかった。(3年生)

見たことのない道具や、おもしろいうちわや、大きなあやとりがよかったです。九州にちゃんぽんや名物があるなんて知りませんでした。かげえはわたしもやってみたくて思いました。(4年生)

とっぴんしゃんで最も楽しかったのはまりつきです。わたしはまりつきといえは「あんたがたごさ」くらいしかできません。だから、もっとたくさんまりつき遊びを覚えて遊びたいです。(おしえてほしいです)それと、ちゃんぽんの音ついできれいですね。(5年生)

いちばん最後のおしばいのときの、みなさんの次々に楽器を使い分けていたのがすいなおと思いました。あと、こまの糸わたりがすこかったです。(5年生)

6年生で最後だったから思いっきり笑える劇にしてほしかった。忘れてくても忘れられないように。劇を見るといっぱいわらっちゃいました。一番すごいーと思ったのは笑いの中でもしんけんな所ではじつと決めるところ。こま、ちゃんぽん、たいこ。思わずはく手をしてみました。笑いの中にも、「へー、こんなのやってみたいな」「すごいー。昔はこんなんだったのかあ。」とか勉強にもなりました。これからもみんなをいっぱいっばい笑わして下さい。(6年生)

たくさんさんの伝承あそびが「わらべ唄」にのって「屋台」から次々に飛び出してきて、大人も子どももみんな心がおどろ、楽しめました。最近の子どもたちはファミコンやゲームで遊び、大切な人間のあったかさを追いやってしまっているような気がします。日本には、こんなにすてきな玩具やわらべ唄や遊びがあったんですね。忘れてしまっではいけない財産です。(おこな)

田じまきほ



## 「とっぴんしゃん」交流

「風の子あそびやとっぴんしゃん」は、1986年の初演以来、およそ2000回公演し、40万人の方々とお出合ってきました。(2004年12月現在)九州沖縄の伝承あそびやわらべ唄、昔話などを屋台にのせて、都市部はもとより、各地に点在する離島や、山間部の小さな集落へも出掛けています。また、老人ホーム等で公演したことも



鹿児島県子ども芸術祭典より奄美諸島での公演。



おはやしばなしでは、奄美に伝わる民話を上演しました。

終演後、手あそびやお手玉をしてお客さんと遊びます。(写真提供：鹿児島県子ども劇場)

あり、世代を超えて楽しんでいただいています。最近では、海外で公演する機会も多く、1993年の香港での公演を皮切りに、アジアや環太平洋の国々でも多くの子どもたちに喜んでいただきました。2002年には、「アジアテジ(国際児童青少年演劇協会)世界大会 in 韓国」に日本代表として参加し、多くの方々から絶賛されました。今後も世界各国の人たちとの交流を続けて生きたいと思っています。



各国の「とっぴんしゃん」パンフレット

子どものいるところ どこへでも とんでいく

# 劇団 風の子九州

- 日本児童・青少年演劇劇団協同組合加盟
- 全国児童・青少年演劇協議会加盟
- アシテジ（国際児童青少年演劇協会）加盟

## 劇団紹介

劇団風の子九州は、1985年劇団風の子より独立して誕生した、九州の福岡に本拠を置く児童青少年演劇の専門職業劇団です。“子どものいるところ、どこへでもとんでいく”を合言葉に、九州・沖縄各地の街中や山間部の集落、点在する離島を駆け回ってきました。

90年からは国内だけでなく、韓国、中国、インドネシア、パキスタン、インド、オーストラリアなど、アジアを中心に海外公演にも出かけ、多くの人達との交流を深めてきています。

2002年からは、韓国の劇団サダリとの合同公演作品『マンナム』を創り上演してきました。アシテジ（国際児童青少年演劇協会）の国際フェスティバル in ソウルでは日本代表としても参加しました。

これからも地域で、“子どもたちと共に未来を創る劇団”として、従来の演劇様式にこだわらず、遊びや日常生活の中から、新しい創造と表現の世界を追求し広げていきたいと思っています。

## これまでの作品



うたえ雨姫



準備完了！第1号計画



竜のとぶ冬



そのウソ、ほんと？



いらっしゃい



ちょちょいのチョイス



ミローン



マンナム



3ちゅう very much!?



なるほ堂ものがたり



# 劇団 風の子九州

〒814-0002 福岡市早良区西新 5-5-13  
TEL092-841-7889 FAX092-841-7896  
ホームページ： <https://www.kazenoko-kyushu.com>  
E-mail： [info@kazenoko-kyushu.or.jp](mailto:info@kazenoko-kyushu.or.jp)